S. (E.) sp. J-14 は既に Bentink (1955) の記載にあるが、繭は有角で蛹の呼吸管は 6 本に分枝し他の形態も *Eusimulium* に一致する。又 *S. (E.)* sp. としたものは呼吸管 12 本で根元から一様に分枝し、繭は無角で比較的平たく且菲薄である。*Eusimulium* に属するものと考えられ詳細は追て発表の予定である。

次に宍道湖附近の平坦地 2 小川より *S. (S.) venustum*, *S. (O.) aokii*, *S. (O.) bidentatum* 等が採集され、就中前 2 者が優勢であつた。

次に隠岐島島後の重栖川、八尾川、向山川の源流から下流迄計 10 カ所に就て採集した所、*S. (O.) aokii*, *S. (S.) venustum*, *S. (O.) bidentatum*, *S. (E.) uchidai* 等が濃厚に分布し、次で *S. (E.) subcostatum*, *S. (S.) japonicum*, クジツノマユブユ, *S. (S.) decorum* 等が見出された。水温は上流で 7.5~9.5°C, 中下流で 8.5~11.0°C であつた。本島農耕地帯に於てブユの被害は相当はげしいとの事で、蛹の棲息状態から推して、主として前 3 種の来襲によるものと考えられる。一方島前に於て 3 カ所の成績では *S. (E.) uchidai* のみしか見出されなかつた。本地区は牛馬の放牧も盛で、之等とブユとの関係も興味ある問題と考える。(京府医大・医動物、京大・動物)

鳥取県西部地区に於けるブユ

岡 本 詢

Okamoto, M.: Studies on the Simuliidae
in the western parts of Tottori prefecture

昭和 30 年 7 月より本年 3 月に至る間、鳥取県西部地区(日野川流域)の 34 地点に於てブユの種類、分布多少、被害状況の調査を行つた。一部県外として岡山県新見市、島根県安来市に於ける種類をも併せ調査した。調査は前回と同様に蛹を主体とし採集同定したが、成虫は一部は蛹を飼育羽化したもの、一部は刺咬活動中のもの、一部は植物等にとまつているものを採集し種の同定をした。同定に用いた蛹は 4854 匹、成虫は 712 匹であつて、その成績は日野川流域では 2 属 5 亜属 18 種、岡山県では *S. 5-striatum* (新見市寺内), *S. sp. J-4* (新見市湯川) を、島根県安来市では同様に *S. salopiense*, *S. bidentatum*, *S. nacojapi*, *S. venustum* (*aokii*), *S. tuberosum* を得た。西部地区で蛹から得た成績は次の通りである。

P. hirtipes, *S. uchidai*, *S. subcostatum*, *S. aureohirtum*, *S. sp. J-4*, *S. salopiense*, *S. bidentatum*, *S. nacojapi*, *S. malyshevi*, *S. japonicum*, *S. decorum*, *S. venustum* (*aokii*), *S. tuberosum* (*rufibasis*), *S. kawamurae*, *S. sp. J-11*, *S. sp.* 又成虫からは *S. uchidai*,

S. salopiense, *S. aokii*, *S. bidentatum*, *S. nacojapi*, *S. venustum*, *S. tuberosum*, *S. rufibasis*, *S. kawamurae*, *S. sp. J-11* の 10 種を得た。先に報告した *S. sp.* の蛹の体部は *S. sp. J-11* とよく似るが、腹部表皮突起の数に多少の相違を認めるので、成虫を得た上で種の検討をしたい。次に日野川水域に於ける垂直分布の大略は採集頻度から案じ、下流より上流に向つて *S. sp. J-11*, *S. sp.*, *S. salopiense*, *S. aureohirtum*, *S. decorum*, *S. bidentatum*, *S. nacojapi*, *S. sp. J-4*, *S. malyshevi*, *S. tuberosum*, *S. japonicum*, *P. hirtipes*, *S. kawamurae*, *S. rufibasis*, *S. subcostatum*, *S. uchidai* の順に分布を示し、*S. venustum*, *S. aokii* は全域にわたり殆ど平等に分布している。そして下流では *S. salopiense*, 中流では *S. bidentatum*, 中流から上流にかけて *S. nacojapi*, 源流では *S. uchidai* が優先種となつている。然し上、源流に於ては支流法勝寺川の影響と思われるが多少雑然とした感がある。

被害状況は各地とも相当に被害があるが、特に標高 50~150 m の山間部一帯は激烈を極め、家の内部まで侵入して刺咬する程である。当地方でも亦“カッコー”“クユシ”と名付けられる布を束ねたものを燻して仕事をしている。要するに今回の調査では 19 種のブユを見出したが、他地方に少い *S. aureohirtum*, *S. sp. J-4*, *S. rufibasis*, *S. sp. J-11*, *S. sp.* が存在する事は分布上興味あるものと思われる。(鳥取大・公衆衛生)

沖縄、奄美大島地方のブユに就いて

緒 方 一 喜

Ogata, K.: Notes on Simuliidae
of the Ryukyu Islands (Diptera)

琉球、奄美大島地方のブユの分布に関しては、素木得一博士(1935)の *Simulium oshimanum* の唯一の記録を除いて、殆ど不明であつた。演者は、1953~55 年にかけて、素木得一博士、佐々学博士、佐藤孝慈氏、田中寛氏により採集された標本を見る機会を得て、分布の一端を知る事が出来た。得られた種類は、*Simulium (Nevermannia) batoense*, *S. (N.) aureohirtum*, *S. (s. str.) japonicum*, *S. (s. str.) tuberosum* の 4 種であつた。*S. batoense* は Edwards(1934)により East Java で採集、記載されたもので新たに琉球が分布地に加わつたものであり、日本初記録である。佐藤氏により石垣島、星野部落で、1954 年 10 月多数のサナギと、それらから羽化した成虫が得られた。本種にはバトエホソスネブユ(新称)と言う和名を与える。*S. (N.) aureohirtum* はさ